令和８年　第８回文教厚生常任委員会会議録

令和８年７月１６日　議員控室

○事　件

（１）所管課報告事項

①内科医師体制について（総合病院）

②旧八雲デイサービスセンターへの対応について（保健福祉課）

（２）報告事項についての協議

（３）所管事務調査

子ども子育て関係事業について

（４）その他

○出席委員（８名）

委員長	横　田　喜世志　君	副委員長	関　口　正　博　君
	赤　井　睦　美　君		小　西　雄　一　君
	斎　藤　　　實　君		寺　田　広　樹　君
	倉　地　清　子　君		黒　島　竹　満　君

○欠席委員（０名）

○出席委員外議員（５名）

副議長	宮　本　雅　晴　君		水　野　博　美　君
	牧　野　　　仁　君		安　藤　辰　行　君
議長	大久保　建　一　君		

○出席説明員（６名）

総合病院事務長	福　原　光　一　君	総合病院庶務課長	長谷川　信　義　君
総合病院医事課長	佐　藤　哲　也　君	保健福祉課長	相　木　英　典　君
保健福祉課長補佐	武　田　利　恵　君	包括支援主幹	谷　口　健　一　君

○出席事務局職員

事務局長	野　口　義　人　君	事務局次長	藤　原　悟　史　君
議事係長	千　代　貴　大　君		

〔　開会　午前　１０時００分　〕

◎　開会・委員長挨拶

〇委員長（横田喜世志君）　時間となりましたので、第８回文教厚生常任委員会を始めたいと思います。委員長挨拶とありますが、割愛させていただいて、事件に入っていきたいと思います。

◎　所管課報告事項

【総合病院職員入室】

〇委員長（横田喜世志君）　所管課報告事項①内科医師体制について、総合病院説明をお願いいたします。

〇総合病院庶務課長（長谷川信義君）　委員長、総合病院庶務課長。

〇委員長（横田喜世志君）　総合病院庶務課長。

〇総合病院庶務課長（長谷川信義君）　おはようございます。内科医師体制について、ご報告いたします。

大変残念ではございますが、令和５年５月１日より当院内科で勤務されておりました、桑原和英医師におかれましては、一身上の都合により、令和８年６月末で退職の運びとなりました。このことにより、内科常勤医師は、現在在籍しない状況となっております。

これまでも内科診療体制は、危機的な状況にはありましたが、診療体制を縮小させることなく、当院の外科常勤医師による内科診療支援及び各方面からの出張医師による支援をいただき、内科診療を維持してきたところであります。内科医師が確保できるまでは、当面はこの状況を続けざるを得ないものと考えております。

当院において、内科は診療の要であります。一刻も早い内科医師確保が必要であり、これまで同様にはなりますが、医師確保を最重要課題として、努力して参ります。

以上、大変雑駁ではございますが、内科医師体制についての報告といたします。よろしくお願いいたします。

〇委員長（横田喜世志君）　報告が終わりました。質問のある方いらっしゃれば、許します。特にありませんか。

（「なし」という声あり）

〇委員長（横田喜世志君）　大変残念ですが、事情によりということなので、新しい医者の確保に努めていただきたいと思います。総合病院の皆さん、お疲れさまでした。

【総合病院職員退室】

〇委員長（横田喜世志君）　それでは、②保健福祉課より、旧八雲デイサービスセンターへの対応について、ご報告お願いします。

〇保健福祉課長補佐（武田利恵君）　委員長、保健福祉課長補佐。

〇委員長（横田喜世志君）　補佐。

○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　それでは、八雲デイサービスセンターへの対応について、ご説明をさせていただきます。

前回２月 19 日までの常任委員会での報告で、社会福祉協議会によるデイサービス事業については、介護保険収入及び利用者の減少により、単年度収支の赤字決算が続いており、事業継続が困難となり、令和８年３月 31 日付で事業を廃止すること、デイサービス事業の赤字について、決算確定後に町が補填することを検討すること、新たな指定管理者の候補として、社会福祉法人渓仁会ということで、３月定例会で議案を上程させていただき、議決後、指定管理者の協定書を締結し、令和８年４月１日より渓仁会による指定管理を開始すること、指定管理者の変更に当たっては、デイサービス利用者のサービスが滞らないよう、町が備品整理等のスケジュールを調整する等ご報告させていただきました。

今回はその後の動き、社会福祉協議会が行っていたデイサービス事業への赤字の補填についてご報告させていただきます。

別紙１をご覧ください。

１、デイサービス事業につきましては只今申しあげたとおり、３月 31 日付社会福祉協議会による運営廃止。４月１日付で社会福祉法人渓仁会と八雲デイサービスセンターの指定管理に関する協定書の締結、同日付で社会福祉法人渓仁会による指定管理開始。指定期間は令和８年４月１日～令和 13 年３月 31 日の５年間でございます。

２、社会福祉協議会によるデイサービス事業の令和７年度収支決算状況についてでございますが、表の左から２列目になります、令和７年度収入は 2,282 万 5,602 円、支出は 3,013 万円で、収支はマイナス 731 万 1,461 円です。

前年度繰越金が 172 万 6,807 円、また社会福祉協議会が行う居宅介護支援事業からの繰入金が 500 万円で、赤字額、資金不足相当額は 58 万 4,654 円でありました。

隣の清算の欄ですが、デイサービス送迎用に使用していた車両を 52 万円で売却しておりますので、その分を収入として計上し、また、電話料として、NTT からの請求が２カ月遅れで発行されることから決算までに請求が間に合わず、電話料 4,847 円を支出として計上しております。

繰入金のマイナス 250 万円は、当初居宅介護支援事業から 500 万円を繰り入れしましたが、社会福祉協議会全体としての決算状況を考慮し、250 万円を居宅介護支援事業へ戻し入れするものです。その結果、右側の合計の欄になりますが、収入が 2,334 万 5,602 円、支出が 3,014 万 1,910 円、収支がマイナス 679 万 6,308 円、繰越金は 172 万 1,807 円、繰入金が 250 万となり、年度末資金不足相当は 256 万 9,501 円となり、これを町で補填しようと考えております。

３、今後のスケジュールですが、９月定例会に補填に係る補正予算を上程させていただき、議案議決後、速やかに社協へ補填分を支出いたします。説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君）　説明が終わりました。質問のある方いらっしゃいますか。

○委員（赤井睦美君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　赤井委員。

○委員（赤井睦美君）　基本的なことがわからないので、教えてください。このデイサービス事業と八雲町の関係をどんなふうに考えればよろしいでしょうか。
要するに、デイサービス事業は、八雲町主催ということですか。八雲町が担うべきことを指定管理でお願いしていたという考え方でよろしいでしょうか。
○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　委員長、課長補佐。
○委員長（横田喜世志君）　補佐。
○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　八雲町の事業を社会福祉協議会に指定管理者として指定しまして使用していただいていたというかたち。
○委員（赤井睦美君）　はい。
○委員長（横田喜世志君）　赤井委員。
○委員（赤井睦美君）　であれば、こんなに赤字出る前にもっと指導なり、支援になり、なんかできたんじゃないかなって思うんですけれども、それができなかったままに、次の人に指定管理が変わっても同じことが起きるんじゃないか、町の姿勢がもしそのままだったらね、同じことが起きるんじゃないかっていう不安なんですけど、利用者さんにとってはやめられたら困るし、あってよかったなって思うんですけれども、町側から見ると、こんなに赤い字出して、言い方悪いですけど、放っておいてね。それをただ指定管理者を変えるだけで、この経営ってうまくいくんでしょうか。
○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　委員長、課長補佐。
○委員長（横田喜世志君）　補佐。
○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　これまでもいろいろご説明申し上げたいと思うんですけど、確かにこれまで社協の赤字に対して、令和４年ごろからのいろいろ相談をいただいて、こちらのほうもいろんな案、アドバイス等を行ってきましたけども、なかなか実施には至れなかったということもございます。
それで、事業者が変わったことで今度は民間の事業者ということもありまして、社協といえば加算だとかほとんど取っていてはなかったんですけれども、今回、事業者が変わりまして、かなり加算取れるものがあるという姿勢で行っておりますので、人員を今までに１人増やしまして、サービス向上もさらに力を入れておりますので、もちろん今後しっかり見ていかなければならないと思いますけれども、やっぱり経営の、民間と、社協の違いになりますので、経営体制がシビアな点がございますので、これまでよりは期待はできるかと思います。ただ、これからも見ていく必要はあるとは考えています。
○委員（赤井睦美君）　はい。
○委員長（横田喜世志君）　赤井委員。
○委員（赤井睦美君）　今回、加算を取ってないっていうのは、私、処遇改善の時にすごく思ったんですよね。職員のこと全く考えてない団体なんだなって。それで、そういうことをしていて、ほとんど500万繰り入れすると厳しいから町で半分見ますっていう、本当に見なきゃダメなんだろうかという疑問があるんですが、やっぱり見なきゃダメなんですかね。自分たちの失点でもありますよね。加算取らないでやってきたという。

結局、指導したのに指導をちゃんと守らなかったっていうこともあるでしょう。だから、それを見ないことにして、赤字だから半分補填しましょうっていうその体制は、どうなんだろうっていう疑問です。どうでしょう。

○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　委員長、課長補佐。

○委員長（横田喜世志君）　補佐。

○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　前回２月の時だったと思うんですけども、やはり同じように説明ですね。やっぱり町のほうもアドバイスしただけで、こちら的に実行を起こさなかったというご指摘も議員さんからございましたので、痛み分けというのを含めての補填というのもございます。

○委員（赤井睦美君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　赤井委員。

○委員（赤井睦美君）　本当に町も余裕があって補填するんじゃなくて、本当に大変な中補填するんだから、社会福祉協議会は、真剣に考えてほしいということをお金とともに、きちっと伝えてほしいなと思います。その他の事業でもやっぱり気になることいっぱいあるので、そこは甘くせず、しっかり見ていってほしいなって思います。以上です。

○委員長（横田喜世志君）　その他ございますか。

○委員（倉地清子君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　倉地委員。

○委員（倉地清子君）　赤井委員と似たような感じにはなっちゃうんですけれども、実質この 250 万が補填ということでわかりましたけれども、今後、４月から事業者が変わりまして、まだ３カ月になりますけれど、この間に、例えば町として利用者のほうの反応だったり、あと、経営状態の推定というのは、何か介入がされているのか、順調に進んでいるかということをちょっと分かれば教えてほしいんですけど。

○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　委員長、課長補佐。

○委員長（横田喜世志君）　補佐。

○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　先月の中ぐらいにお聞きした情報なんですけれども、４月、５月の段階では正直赤字ではあります。

ただ、利用者の人数については、いろんな加算を取っているので、以前よりも利用料が若干高くなるんですけれども、それで利用者が減るかなというのも予測はしていたんですけれども、それはほとんどなく当初は４月よりも５月というように増えているような状況です。

赤字と言いましても、想定内の赤字という、想定内の赤字ということでしたんで、今年度の目標で年度１年間通して赤字は無理だとしても、今年度中に黒字の時期が一月でもあるっていうのを目標で向こうのほうも動いてくということでした。

○委員長（横田喜世志君）　よろしいですか。

○委員（倉地清子君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　他にあれば。

○委員（関口正博君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　関口委員。

○委員（関口正博君）　今後、八雲町としてこの事業に対して負担というものは、そしたら現状においては、今までのような負担というんですかね。そういうものが発生しないという理解でよろしいでしょうかね。
○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　委員長、課長補佐。
○委員長（横田喜世志君）　補佐。
○保健福祉課長補佐（武田利恵君）　現段階では、負担は生じないというのでおります。
○委員（関口正博君）　はい。
○委員長（横田喜世志君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　とても言いづらいことなんですけれども、これまでも社協のいろいろな説明というのはされてきてて、これまでの指定管理制度の甘さであるだとか、行政が向き合うべき一方で、この社会福祉協議会というのは役場 OB の方だからできない、そういうポジションについていらっしゃる。今の時代もそういうものって、すごく簡易的に見られていて議員の皆さんもなかなか言いづらいんですけどね。
　もちろん議員が言いづらいってことは、職員の皆さんはもっと言いづらいわけで。だからこそ議会として、そういうものっていうのは本来であればもっと突き詰めて、ちゃんと議論していかなきゃならない。
　今後、渓仁会に代わって運営がもしうまくいくとすれば、なおさらこの社会福祉協議会の内部事情というものをしっかりと洗わなければいけないということにもなるんですよね。
　これまでの時代とは違って、ましてや行政も財政健全化なんていうものを前面に打ち出していくとすれば、そういうものというものはちょっと避けて通れない可能性もあるので、今、赤井さんも切り込んでくれたので、俺もここまでしゃべれるんだけど、この社会福祉協議会とのお付き合いという部分も含めてですね、また議員がそういうことを言ったっていったら、俺も怒られるから正直ね、いろんなことありますしね。
　だけど、もうそういう時代じゃなくなってしまったんだよ、しっかりとした事業というものを運営していかなきゃならないんだよということは、これは議会のほうからもそういった意見が出てました、ということだけは、ここで終わりじゃなくて、社協のほうにもしっかりお伝えしていただきたいなというふうに思います。
　これはデイサービスばかりじゃなくて、他の部分に関わる部分もしっかり目を光らせなきゃならないということにもなっちゃうので、本当円滑な事業継続と、今後の社会福祉協議会の運営のあり方そのものというものは、しっかり内部で行政側も含めてしていただきたいなというふうに思います。今後の部分は、よろしくお願いいたします。
○保健福祉課長（相木英典君）　委員長、課長。
○委員長（横田喜世志君）　課長。
○保健福祉課長（相木英典君）　社会福祉協議会とですね、きっちりとコミュニケーションをとりましてですね、今言われたことを私のほうからも伝えて、今後、健全な運営ということに相互に確認しながら進めてまいりたい、努めてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。
○委員長（横田喜世志君）　他になければ、旧八雲デイサービスセンターへの対応についての議題を終了いたします。保健福祉課の皆さん、お疲れ様でした。

【保健福祉課職員退室】

○委員長（横田喜世志君）　（２）の報告事項についての協議を行いたいと思います。何かございますか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君）　それでは、（３）の所管事務調査、子ども子育て関係事業について、１点事務局にお伝えした資料が手元にあると思います。これについて議論したいと思いますが、いかがでしょうか。

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　委員長、まず僕のほうから資料説明をさせてもらってもよろしいかなと。

○委員長（横田喜世志君）　はい。事務局。

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　前回の文教厚生常任委員会で調査事項として挙げられました、子ども子育て関係事業についての協議ということになりまして、お手元配布している資料裏面刷りで３ページもの。こちらはですね、３月の予算特別委員会でですね、資料として出されていました。令和８年予算説明資料からですね、子ども子育て関係事業そのまま抜粋したものでございます。

　一応すでに皆様３月にお目通しいただいているので、ご存じのこともあろうかと思いますが、念のためちょっとご説明させていただきますと、左側からですね、事業名称、そしてそれの当初の予算額。

　なので、今後も補正があれば、これは追加されていくものの可能性がありますが、当初の予算額。そして、その予算額に対する要は予算から支出なんですけど、予算額に対しての歳入となります、財源内訳を書いてございます。左側から国庫支出金、道支出金、地方債、そして、それ以外の財源で、それを全て差っ引いたものが一般財源ということで数字が入っております。

　下に括弧書きがある事業につきましては、これは３月時点における前年度の決算見込み額になりますので、若干３月から今の４月までの間ですね、精算などによってここの数字も、７月現在では変わっている可能性がありました。あくまで表示しているのは、３月末現在ということになってございます。

　そして、説明書きということでその事業概要が示されてございます。総務費から教育費まで見回しまして、子ども子育てに関係すると思われるものをすべて抜粋してございます。事務局からの説明は以上でございますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君）　ありがとうございます。どうですかね。皆さんこの抽出していただいた一覧を見ていただいて。

○委員（倉地清子君）　何をすればいいですか。すいません。そもそもの趣旨が。

○委員（関口正博君）　見方として、本来、財政健全化ということで、子育て支援政策というのは、議会でも強く推し進めてきたものだから。それで、もう何年経ちますかね。積極的になってから５年、僕議員になる前からか。もう 10 年になるのかな。

だから、その効果検証というものは、財政健全化ということであれば、議会が積極的にやったものに対して、やっぱり我々がちゃんとその効果を検証して、これはもっと縮小できるんじゃないなとかっていうことをやっぱりちゃんと入れていくべきだろうなというのがまず一点。

それで、見方として今係長のほうから国庫支出金とかってあるけれども、この中でもとりわけ一般財源が多いところというものは、今町が単独で自前の政策としてやっている部分ということにもなるので、そういったことを中心にちょっと見ていただいて、ここもうちょっと減らせるんじゃないのだとか。

例えば、この資料でいけば医療費の助成というのは結構町の負担というのかな。

〇議会事務局議事係長（千代貴大君）　上から２行目のこども医療費助成。

〇委員（関口正博君）　こども医療費か。

〇議会事務局議事係長（千代貴大君）　それで、３番目のひとり親。

〇委員（関口正博君）　そうだね。4,600 万の事業費に対して、特定財源。これ、ふるさと応援寄付金の繰入金かな。それが多いのかな。４千万ほどは町からの負担ということになるんで。これも過去、例えば高校生まで拡大して行ったというのは、ここ最近のあれだろうかなということにもなってるんだけど。

これは、町の持ち出しというのが非常に大きい、負担の大きい部分なんだけど。ただし、これもそこだけで見ていいのか、総合病院の経営というものを考えたときには、こういうものっていうものも、これはバランスが非常に難しいのかな、これからもね。

それで、一つ一つの事業を改めてこれを縮小する、しないじゃなくて、改めて皆さんに見ていただきたいなという部分がまず一点。これにいくらもちろん節約できるかは大事なんだけど、これはこういうような効果があって、これはやっぱり投資的なもの。役割を果たしてるというものはやっぱり省けないし、改めてちゃんと皆さんに見ていただきたいなと思うんだよね。

これだけ積極的に八雲町が子育て支援施策を行ってきましたよということも、また裏返しではあるんだけども。ただ、これも僕はある程度ランク分けっていうものが必要なのかなというふうに、これは重要なものだよね、抜かせないよねっていうことは、一つ一つ議会でもやっぱりちょっと見ればどれもこれも大事なものなんだけど。

例えば、子ども医療費っていうのは、これが子どもの数もどんどん減ってくるんで、金額ももちろん減ってくるんですよ。あと、この保育事業関連というのもきっとそうでしょう。いろいろ給食費の助成なんかっていうのもそうだろうけどね。あと、国の施策によって、ほぼ財源が国庫支出金に切り替わる可能性があるものもあります。給食費などは、今議論の対象になっているので、これから町負担というものが少なくなってくる可能性もあります。

〇委員（赤井睦美君）　よろしいでしょうか。

〇委員長（横田喜世志君）　赤井委員。

〇委員（赤井睦美君）　ここにないんだけれども、毎年じゃないけど、子育ての計画とか障害者の支援計画だとかって、２年に１回か３年に１回委託料として作るじゃないですか。もうこの AI の時代で今までずっと作ってきた計画で、その計画が果たして町に合ってるかっていうのは役場が一番分かってると思うんですね。担当課が。

そしたら、もうAI等を活用しながら、そこの高い委託料を払うんじゃなくて、自分たちでできないのかなっていう。職員が少なくてできませんって言ったらそれまでなんだけど、であれば、なんか八雲町の民間のそういう得意な人たちと共にやるとか、あんなに高い委託料を払わなくていいんじゃないか。

たまたま８年度はそういう計画を作らないから予算にはないんだけれども、そういうところも私はちょっと見ていたほうがいいかなって思います。同じ民間とやるんだったら、町にお金が落ちるような方法を考えるとかね。

あと、もう少しお金のかからない大学の研究とともにやるとか、なんかこうもうちょっと工夫できないかなっていうのが１つと。削減で言ってるのに増額しろっていう意味ではないんですけど、今年初めて保育士さんが足りないからという理由で保育士さんの奨学金の免除っていうか、奨学金支援金が発生したんですね。

それで、今回の落部における懇談会の中で、やっぱり奨学金、八雲で３年働いたら八雲町が面倒みるよって、半分でもね。せめてそういう制度できないかっていう声も出てたので、なぜここで保育士が足りないから保育士だけなのかと、そういう幅が広げられないのかっていう疑問はあります。

それで、見てみなきゃ分からないけれども、この保育士の奨学金の補助で果たして今年度、何人来たんだろうかという、これがよくてね。っていうのは、ちゃんと見ていかなきゃいけないなって思いました。以上です。

〇委員長（横田喜世志君）　赤井委員言ったように、今年保育士に対してはこの前からの人材確保事業というのも行われておりますけれども、今年度はその下の奨学金返還支援事業というのが設けられたということで、これは今年度なので、今後どの程度の効果があるのかということは見ていかなければなりません。

今まで行われていたそういう事業。特に、特定財源のその他とか、一般財源の多いものっていうものを重点的っていうのもあるんですが、そこらへんはいかがなものかという感じですかね。

あと、私の個人的意見として付け足したいのは、子どもの医療費助成について、これ発足するときに八雲総合病院に限るということをしようとしたんですが、そういう発言をしたんですが、それが認められなかったということで。

でも、私としては自治体の事業なので、それは自治体の考え方じゃないのかなと思ってたんですが、それは一般的に受け入れないほうがいいということで、先ほど関口委員が言ったように総合病院との関係とかっていう関係でいけば、どうなんだろうな。再考する必要もあるんじゃないかと私は思います。

〇委員（関口正博君）　改めてね。

〇委員長（横田喜世志君）　だから、それが総合病院に対しての１つの支援でもあり、八雲町民の医療に対しての八雲総合病院の医療に対しての認識をちゃんと育てるというのにもつながるんじゃないかなっていう思いはあります。まあ、そういうのもいろんな分野であると思うんです。

例えば、結局事業をしていく事業者の中でたまたま地域保育所委託料に挙げられている、こばと保育園のことも、それも以前に報告として、認可を、受けないだったか。

○委員（赤井睦美君）　認可を受けてない。
○委員長（横田喜世志君）　まあ、そういうことで。でも、この地域での保育事業としては、ニーズがある。事業者として認可を受けないっていうことを方向をとっているということなんですよね。
まあ、それでどっちがいいかっていうのは、補助金を受けられる、受け入れないとかいう部分にかかってくるんですよね。
だから、その上の保育対策総合支援事業で受けれるものが受け入れないとかね。まあ、そういう八雲町にとっていいか悪いかという部分でいけば、どうなんだろうという部分。ただ、認可保育所とかになると、今こばと保育園でやってることができないということにもなるんですよね。それがいいかどうかというのもやっぱり考えていかなければいけない、というところなども踏まえながら、これを直に皆さんそれぞれ調べてもらいたいっていうほうがいいか、それとも次の。
○委員（関口正博君）　病院関係に関しては特別委員会はあるって、俺の中で、してた部分は大きいけど。まあ、保育関係の部分も中身の問題っていうのはなかなか触れられないところではあったんで。
これが子どもたち減ってくるんですけれども、この保育所っていうのも今行政側のお金で運営しているので、やっぱりここも今こばと保育園の例が出ましたけれども、町がお金を出しているということであれば、将来的に施設だってちょっと余ってくる可能性だってあるわけですよね。これから先ね。学校の量と同じようになって。
であるならば、将来見据えた施設のあり方というものはちょっと考えていかなければならないのかな。
それで、先ほど赤井さんも保育士に限って、奨学金の支援というのがあったけど、大事な見る要素というのは、やっぱり公平性なんですよ。こういうことというのはしっかり考えなければならない。例えばはっきり申し上げますけど、赤井さんが議員やってるから保育の部分はっていうふうには決してできないからね。
○委員（赤井睦美君）　ないですよ。それはない。
○委員（関口正博君）　だから、言いづらい雰囲気とかあってさ。
○委員（赤井睦美君）　あ、そう。幼稚園やめましたので、遠慮なく言ってください。
○委員（関口正博君）　でも、これは今回、漁業者の後継者支援ということもできたけど、これらの、あくまで我々議会として考えるのは、公益性、公平性で投資目的っていうものは、しっかりきっと分かれてくるのかな。そこを中心になってみていかなければならないのかなってことだけは、ちょっと抑えていただいて、一つ一つのことを洗い出し議論しましょうかねっていうことかな。
○委員（赤井睦美君）　はいはい。全くそういうことはないんで、例えば、保育士の住宅支援も私反対したんですね。実は。それによって入ってくる人っていないから。だって、東京、神奈川とかゼロなんですもん、住宅費が。全部家用意していますって。それなのに、ここで支援出したからって、じゃあこっち来るかって、もうそれはないんですよ。だから、これは無駄になるってことで。

それで使っているのはね、これによって新しい人が来たんじゃなくて、３年目までは出しますよってことにしちゃったから、町がね。だから、お金を使ってるんであって。これで人が来て、その分使ってますってことではないんですよ。

だから、奨学金も今年ちゃんと見てなかったんだけれど、これで来た人に出すのか、それとも前みたいに３年目まで援助をしますよ、みたいな感じであれば、私やっぱり意味ないと思うんだよね。

なぜ保育士にばっかり。いや、悪いですけど、なぜ保育士にばっかりこんなに力入れたのかなーっていうのは、ちょっと。それで介護士さんも少ないから、介護士さんについては、じゃあ、町が合同で試験して、町が試験受けに来てくださいっていう呼びかけをしますよって、そこまではやってくれたんだけれども、その後別に何もないでしょ。この差は何かなぁっていうのはあります。

あと、こばとさんは、きっと認可保育園になると、いろいろ人員配置とかね。給食をやらなきゃないとか、すごいめんどくさいんですよ。だから、きっとこばとさんはそこまではできないから、無認可のままでいると思うんだけれども、無認可でこれだけのお金を町が払うことよりも、国からも道からももらおうと思えば、ちょっとそのめんどくさいところを町が支援してあげることによって、少し軽減されるんじゃないかなと思うけれど、他の保育園でまだ調査してないんだけれども、そういうところも見ていったほうがいいなって思います。

○委員（倉地清子君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　倉地委員。

○委員（倉地清子君）　これは個別の話になるけれど保育士の話だから、マリア幼稚園は認可受けてて、ようやくやくも幼稚園も認可受けてやってるんだけど、結局、給食もそうだし、なんとか見つけたからよかったと。それで、保護者の方はああいうふうになりました。けど、やっぱりね、職員たちが時間も長くなるし、シフトも組まなきゃいけなくて足りないっていう、すごく疲弊している部分があって、辛いっていう話は聞いてるんですよね。

それで、３年間の助成だっけ。その住居した。それはもう全然クリアできない状態だから、これちょっとどうにかなりませんかねという話の相談を受けたことあります。平等ではないんじゃないかということでね。

要は、幼稚園の先生で保育士ではないっていう部分がっていうのもちょっと議論できたらなっていうのは。

○委員（赤井睦美君）　あ、ごめんなさい。やくも幼稚園の個別な話でごめんなさい。やくも幼稚園が認定こども園になったら、みんな保育士も取らなきゃダメなんだよ。だから、幼稚園であって保育士じゃないっていうのは、今までは通用するけど、これからは通用しないの。だから、全員保育士も取らなきゃいけない。両方持ってなかったら、認定こども園はできないんです。

だから、うちがみんな持ってますじゃなくて、みんな持ってて初めて認定こども園になれると思う。だから、まだ持ってないとこれから。

○委員（倉地清子君）　負担がかかるという。

○委員（赤井睦美君）　それは国の制度です。

○委員（関口正博君）　はい。

○委員長（横田喜世志君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　いや、なかなか保育士に対してそんな深く議論したことなかったから今見えてきたんだけど、要は認定を受けてないところにすら行政はお金を出してきたということ自体の正当性ってちゃんとあるのかね。
今までは許可として問題ないから、行政としてお金出してきたのかもしれないけど、この先もちゃんとした認定を取らなければ、町は支援する意味っていうものはちょっとそこでちゃんと区分けしていかなかったら、出す金額も認定しているところと認定してないところが同じ金額を出すっていうのは、これちょっとさっきのに対して公平性としてちょっとおかしくなっちゃうんじゃないの。
○委員（赤井睦美君）　認定してないのは、今のところ野田生だけ。
○委員（関口正博君）　野田生だけ。
○委員（赤井睦美君）　認可もらってないの。それで前、山崎の保育園もそうだったけど、山崎の保育園は、園児が減っちゃったからもうやめちゃったけど、認可をもらってないのは野田生だけです。あとは、みんな認可保育。
○委員（倉地清子君）　落部も。
○委員（赤井睦美君）　うん。
○委員（寺田広樹君）　無認可のメリットって、やっぱり値段っていうか、安いって聞きましたけど、こばと保育園。
○委員（赤井睦美君）　保育料。
○委員（寺田広樹君）　保育料か。
○委員（赤井睦美君）　だって、給食もないしね。
○委員（寺田広樹君）　その分安いってことか。
○委員（赤井睦美君）　それから保育園側としては、国が定める人員を絶対確保しなくても無認可だから許されるんですね。今、人材確保ってすごく難しいじゃないですか。
だから、そこでもし認可取りますって言ったら、もう人員の配置が厳しくなるので。だから、無認可のままいると思います。
○委員（倉地清子君）　そうだよね。
○委員（関口正博君）　今のこばとさんってよその地域からかなり受け入れしてるの。
○委員（寺田広樹君）　してます。送迎してますよ。漁組の前に毎日送迎しています。
○委員外議員（安藤辰行君）　八雲から来てる。
○委員（関口正博君）　そこはこばとさんのね、メリットなんだよね。保育料安くて。
○委員（寺田広樹君）　安いって聞きますね。
○委員外議員（安藤辰行君）　一律一緒だべ。所得でねぇの。
○委員（赤井睦美君）　そうだ。所得。
○委員（寺田広樹君）　所得でみるんだ。
○委員（倉地清子君）　保護者の負担ってどうなの。お弁当を作ったりとかっていうのはしなきゃならないっていうこと。
（何か言う声あり）
○委員外議員（安藤辰行君）　みんなだから、こばと来るしょ。

○委員長（横田喜世志君）　まあ、でも、このまま認可取れることになるとこども園になるから。さらに面倒くさいよね。
○委員（赤井睦美君）　園舎の面積から変わってくるから、本当に大変なんだ。
○委員長（横田喜世志君）　要はさ、制度っていうものがあってね、こういうのは、年々変わっていくけれども、旧制度で発足したものをいきなりバツにはできない。
○委員外議員（安藤辰行君）　そうなんだよな。
○委員長（横田喜世志君）　だから、例えばさっき赤井さん言った、やくも幼稚園だって幼稚園としてやっぱり苦しいんですよ。やっていくにも。そうすると、こども園にするしかなくなってくる。経営の中でですね。そうすると、こども園しかない。ただ制約がある。それにクリアしていかなきゃないというところで、さっき言った倉地さんの話が出てくるわけですよね。
　ここは、今の制度で発足するために仕方ないというか、そういう決まりがあると。でも、昔のを今の決まりに当てはめるということは、また別の話です。昔から存続しているっていうのは、そのまま尊重を認められてると。これは、今やっている経営者側が判断になるよと。
　だから、例えばここで明確に金額が出ているんですが、これをいきなり町が配置しますとは絶対言えないと思う。
　だから、以前聞いた話では、そういう認可を受けてほしいっていう構想は役場としてはしてるということなので、そこが決裂したという結果ですよ。
　それは、役場としては、認可を受けてもらったほうが金銭的なメリットという考え方。でも、受けなかった側は、自分の経営状態。そういう先ほどちらっと出てきたような、しなくてもいいことが発生するっていうことですよね。そこだけ折り合いがそうもつかない。
○委員（赤井睦美君）　ただ、地域保育所っていう限りは、園児の中の何人が野田生の子どもで何人が野田生以外なのかということを見ていかないとね、バスで来てくれるし、保育料は安いからということで預けてらっしゃる方もいて、もしそれで野田生以外の人が、野田生、東野以外の人がとっても多いのであれば、地域保育所ではなくなってしまうと思うからね。
　その辺も調べて、であれば、そっちから逆に、町内の保育園、今国の子保育園さんとか、なかよし保育園さんも園児足りないんだから、こっちから運んできてそこに入れるっていう。今すぐじゃないけれども、そういう方法だってあると思うんだ。
　だから保育園が園児の割合。地域の子どもが何人いて、八雲町内の子どもは何人行ってんのかということもちゃんと知らないと、地域保育園だから野田生にはあったほうがいいって思いは私はすごいありますけども、実際、中身を見てちゃんとやっていかないと。
　さっき、関口さんも言ってたように共倒れになっちゃうしょ。園児が少なくなっちゃうからさ。そういうことも考えていたほうがいいなって思います。
○委員（倉地清子君）　わかりました。
○委員（関口正博君）　ちょっとしたら保育所の中身について、それらを含めたなんか形態もよくわからない幼保連携型だとか。
○委員（倉地清子君）　全然知識不足で。
○委員長（横田喜世志君）　でも、八雲の認可保育所というか、その保育所としては、熊石は町営、公的。八雲地域は民間でっていうその違いはある。公的に見なきゃならないってい

うところで、八雲にも公的な保育所はあったにも関わらず、全部閉鎖してるわけだから、それは民間であるからっていう言い訳なのか知らないけども。

だから、一時流行った行政の仕事を民間に振るっていう、民間委託にするっていう、いいところ悪いとこの問題がちょっとあると思うんだよね。

行政にしてみれば、自分ところの負担が少なくなるので、民間委託すれば、それを進めている政府がいるからね。民間委託すると交付金になり補助金がでるというような仕組みがあるんですよね。

だから、その地域の特性だとかあるので一概にこれはいい、これはだめとはなかなか言いずらいんだけど、知らないで今みたいに論議してもなかなか前に進まないので、やっぱり疑問に思ったことを調べていくっていうことじゃないかな。

○委員（関口正博君）　仕組みから。

○委員（倉地清子君）　本当ですね。

○委員長（横田喜世志君）　先ほど、それこそ赤井さんが言ったように、この中にないけれども、計画策定費っていう何年かにいっぺんのそれもどうなんだろう。調べれるのかな。

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　大丈夫だと思います。今ちょっと確認したんですけど、平成６年に一回、その子ども子育て支援計画というのを策定してるんですね。

○委員（赤井睦美君）　令和じゃない。

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　失礼しました。令和６年です。それで、５カ年計画なので、次回は令和 11 年。

なので、調べ方として令和６年はどうだったのかとかっていう進め方がよろしいのか、そういうことなのかなと。他にも、健康増進計画策定とかあるけどそっちだと 12 年計画とかなんで、ちょっとそこはもう本当にちょっと視点が視野からちょっと遠すぎるのかなと思います。子育ては令和 11 年が次ですねっていうお話だったと思います。

○委員（関口正博君）　行政がさ、財政健全化なんていうことを言っておきながら、それぞれやってることってそもそも何なの。

○委員長（横田喜世志君）　だから言ったっしょ。民間活用して補助金が出るとか交付金も出るからさ。それじゃなきゃやらないしょ。やらないっていう言い方はおかしいけど。

○委員（関口正博君）　ちょっと赤井さんに質問。今の例えば幼稚園の状況というのは、これで子供もうまれる数が少なくなって、これだけの施設の数があって、要は入園者そのものっていうものはどんどん減っているわけですよね。

ただ、保育士の数も減ってきているので、それでも適正なものっていうのはあるんだろうけど、これからっていうのは、この数当然減っていきますよね、子どもたちの数。やっぱり奪い合いになってくるの。どういうことになってくるの。

これはまあ、親が選ぶんだろうけど、入れるところっていうのは。だけど、施設過多になっていく可能性というのは八雲町においてはあるの。

○委員（赤井睦美君）　あると思いますけど、ただ、昔に比べて言うと、働くお母さんが増えたから、園児減っても０、１、２は増えてるんですよね。

だから、そういう意味で国から来るお金が０ってすごく補助金高いので、園は維持していけるの、０歳が来ると。だから、園児が少なくとも０歳が入ってくると、園そのものは維持していく。

だから、なんとかやっていけると思うけれども、私たちの私がいた時は、もし奪い合いになったらね、こんなつまんないことないからもうマリアはさっさと辞めて、高齢者の保育園じゃないけれども、高齢者が集まれる。あと、学童が足りないといえば学童にする、そういう地域の集まれる場所に変えていくかっていう話もしてたんで、そこは子供子育て会議の中で時間かけてね、統合していこうって方向になると思いますけどね。それでないと、そんな奪い合ったってどうしようもないから。

○委員（関口正博君）　あと、地域の要望としてだけど、やっぱり今赤井さんが言ったように、０～３歳児の受け入れっていうものは強くやっぱり言われるんですよ。まあ、落部はどうしても漁師町だからなおさらそうなんですけど、それとやっぱり学童なんだよね。落部地域っていうのは、今レクセンでちょっとやってるけど、八雲に比べたら学童の受け入れっていうものはないもんだから、住みづらいよねっていう。

これは当然、地域によって格差あるのはしょうがないんだけど、むしろそこを言われるということは、ちょっと子育ての中ですごく多いよね。０～３歳児の需要と、まあたぶん数は少ないだろうけどね。

○委員（赤井睦美君）　でもね、私は思うんだけど、あかしや保育園って学童やってるじゃないですか、町内で。あかしや保育園をやってる法人が八雲町内で学童３つやってるじゃないですか。

だから、あかしや保育園を使えるかどうかは別としても、町に場所をお願いして借りて、あかしや保育園やってる法人が学童できると思いますけどね。

○委員（関口正博君）　なるほどな。

○委員（赤井睦美君）　だから、なぜ落部で保育園やって、八雲町で学童やってんのに落部で学童やらないのかなっていうのは、逆に。

○委員（関口正博君）　それが可能なんですか。

○委員（赤井睦美君）　そうそうそう。可能可能。

○委員（関口正博君）　えー。

○委員（赤井睦美君）　ただ、場所さえ。聞いたのは、場所がないからできないっていう、その法人のね、考え方。だけど、いくらだってそんな人数すごいわけじゃないからね、空いたお家とか、そういうところを借りていくらだってできると思うんだよね。

○委員（倉地清子君）　例えば野田生も学童ないじゃないですか。それも可能性としては。

○委員（赤井睦美君）　もしその法人がやっていいよってなれば。でも１人２人だと、１人でも職員は２人つかなきゃなんない。子ども１人でもね。だから、民間ですから経営が成り立たないと思えばやらないと思うけども、落部はやる場所がないという理由みたいだから、場所さえ確保してくれれば多分やれると思いますけどね。

○委員（関口正博君）　この学童に対する支援とかも行政としてはしてるわけでしょ。

○委員（赤井睦美君）　してるしてる。

○委員（関口正博君）　それで、落部であればレクセンでやってる部分、多少なりとも出してるだろうし。熊石も当然そうなんだけど。もし保育所がそういう場面も兼ねてやるんであれば、施設統合とかにもなっていくんで行政の負担は減る可能性はあるよね。当然ね。

○委員（赤井睦美君）　でも、落部ね、０歳入れないって言ったから私もちょっと調べたけど、ちゃんと困ってる人はいませんって答えだったんだよね。

入れなくて困ってる人はいませんって、みんな入れてますって。どっちがどっちか分からないけれども、調べた感じでは、入れたいっていう人は入れてるみたい。

○委員長（横田喜世志君）　そういうね、制度としては可能だし、例えば落部のレクセンの一間を使って学童というのもそれは可能ですよね。ただ、問題は事業者として人員の確保だとか、それに見合うだけの収益だとかっていう感じだよね。

だから、例えば熊石はくまいし館だっけ。一部使って学童のために経費を出しているけども、そういうことが可能っちゃ可能だ。

○委員（赤井睦美君）　教室も小学校とかに空き教室があれば、本州のほうだったら高齢者の方たちがそこに居てくれて、ただいまって学校から直接そっちの教室に行くと、そこが学童みたいな感じでやってる場所もあるんだよね。

○委員（関口正博君）　制度としては可能なの。

○委員（赤井睦美君）　うん。いろいろ工夫していけば、学校の中にあれば一番楽だよね。

○委員（倉地清子君）　逆に学校で朝早くに朝食を作っている地域のおばちゃんたち来て、先にそこにご飯食べてから授業に行くっていう学校もあるね。

○委員長（横田喜世志君）　そうだね。学校管理者とだいたい断定できるから、なかなか学校間では言いづらい部分でてくるんじゃない。元々は、どう子育てしていくかっていう子供を基本的な部分を共通しないと、なかなかそういうこともたどり着けないから。

○委員（赤井睦美君）　ニーズ調査して、本当に学童に入れたいという人が何人いてってなると、法人との話し合いってきちんとできるからさ。なんとなく入れたいって、ふわふわな声だけだったら法人もね、動いていいのかどうかわかんないから、そういう調査も必要だと思う。

○委員長（横田喜世志君）　学童って言ったって、職員やってって中で集められないんでっていう、ほとんど出ないとも限らない。だから、なんだろう。昔の話をする人もいて、私らの大きい子は学童行かなかったって。今はもう小学校６年までびったり来るとか、そういう話で。

要は、見る側の保育士だとかも人数の確保がだんだん難しくなってきてということもあって経営者側としても、人を雇うということは金のかかることだから、それに見合うだけ収入がなければ。

具体的に、ここを調べましょうとかってやったほうがいいのかな。

○委員（関口正博君）　ちょっと保育園から離れますけど、先ほど委員長が言った病院給付の部分での、よその地域で使われているものというのはこれ調べることできるの。だけど、その中の何割かは総合病院で。

だけど、本当に八雲総合病院がこういう状況になってね。今その制度そのものはどういう中身になってるかちょっと俺も今ぱっと出てこないけど、八雲総合病院限定ということにはできないんだろうか。むしろ今であれば。その当時はできなかったのかもしれないけど。

○委員（赤井睦美君）　その当時の一番できない理由というのは、みんなの税金使ってるのにその税金でよその病院行ったから補助しないというのはおかしいんじゃないかと、そういうこともありました。

○委員（関口正博君）　ああ、そういう理由だったんだ。

○委員（倉地清子君）　今、高校生までいけるから八雲から出て行っているけど、八雲町民という人もいらっしゃると、他の函館で受診とかってそういうのもあるよね。

○委員長（横田喜世志君）　八雲の高校じゃない高校行ってる子が受けられないべっていう話で。

○委員（関口正博君）　でも、この病院給付そのものが投資的な役割だとするならば、よその学校に行って地元に戻ってくるのであれば投資的な役割を果たすけど、そのままよその地域に就職しちゃったらこれは投資でも何でもなくなると思うんだけど、そこは割り切って考えなきゃならない部分も出てくるんじゃないのという話なんだけど。

○議長（大久保建一君）　子育て支援も投資だけとして捉えるのはちょっと難しいんじゃないの。

○委員（関口正博君）　いやいや、まあ、もちろんそうなんだけど。もちろん公平性からちょっとずれてしまう部分もあると思うんだけど。でも、これはあくまでも財政健全化なっての話だから。

○委員（赤井睦美君）　国保だったら八雲総合病院、八雲町民が何人使ってとかって出るけれども、国保以外の保険の人たちのは分かりにくいんですって。前そういうお答えをいただきました。

○委員長（横田喜世志君）　でも今。

○委員（赤井睦美君）　マイナンバー。

○委員長（横田喜世志君）　みんなにさ、何か出してるわけだから。昔はさ、国保の人数どんだけ、要は八雲町の管理下の国民健康保険しか把握できないので、他の社会保険関係の把握できないけど、今は、町民に対して全部入力しているわけだから。どこの保険になんぼ出してるとか調べれるはず。医療費無料についてはよ。

○委員（関口正博君）　だよな。総合病院に限定したって、内科医師いないからな。

（何か言う声あり）

○委員（斎藤　實君）　だけども、妊婦なら結構親元に帰って地元の病院でいろいろ検診するとかって言えば、これもまた否定できないんだよね。ただね、30 何項目あるんだよね、これね。それで 12、３億。12 億５千万前後ぐらいになるんだわ。

○委員（関口正博君）　そのうちで一般財源って。

○委員（斎藤　實君）　一般財源ね、やっぱり５億ぐらい。その他の財源も基金取り崩してやっても、おそらくその他の財源だったら、ふるさと基金取り崩せば一般財源でやればね、やっぱり５億ちょっとぐらい。

ただ、問題はさ、俺は冒頭でもって赤井議員さんが効果あるんだべかという話してましたよね。それで、これだけのメニューやって考えてみればね、子供できました。それからの対応はね、医療費ひっくるめてずいぶんこう手厚い部分見てるけれども、その以前の部分が何もないんだよね。考えてみればね。

それで、これだけで果たして、例えば事業の見直し別にしてさ、子供をたくさんここで産んで育ててもらうかという政策に、果たしてこの政策だけでいいのかどうなのかという、俺ずっとこれ１つずつ見てどうなんだべなぁと思って、結論は出ないんだけどさ。

○委員（関口正博君）　いや、事実子どもの数はどんどん減っているんだし、もちろん子どもの事業を八雲はやってるからまだそれだけの減少率で抑えられているっていう可能性の部分もあるんですよ。

○委員（斎藤　實君）　そうそう。そういう考え方もある。

○委員（関口正博君）　難しいよね、だからね。いや、逆に今子育て頑張ってて、この人口減少の中、４人とか頑張って奮闘して育てている方に対する、まあ裕福だからっていう理由ももしかしたらあるかもしれないんだけれど、そういう人にも目を向けるということも、個人的にはあってもいいのかなと。まあ、とても難しい問題です。

○委員（関口正博君）　しっかりとなんか本当に必要な人たちに、本当にこれが行きわたってるのか。どうしよう、これからの進め方としてね。

まあ、今斎藤委員おっしゃったように、12億のうちの一般財源が10億ちょっと。

○委員（斎藤　實君）　一般財源との基金の部分で５億ちょっと。問題はそこなのさ。

○委員（関口正博君）　そうだよね。今後のなんか絞っていく。さっきの保育園なんとかの制度があり方っていうのはちゃんと検証してみますか。そしたら。

○委員（倉地清子君）　そうですね。すみません、初歩的なところから。

○委員（赤井睦美君）　あと、やっぱり転勤族の人とずっと前だけど文厚で話し合った時には、非常に子育てしやすい町、ここは。だけど、小学生、中学生だったら、もう教育格差がつくから結局よそに行っちゃうんですよね。例えば、部活やりたくても部活がないとかね。勉強をもっとしたくてもできないとかって。だから、子育ては非常に充実してるけど、その先がちょっと足りないのかなぁっていう。

○委員（関口正博君）　なるほどね。

○委員（赤井睦美君）　削減とか言っといてそれを言ったらちょっと申し訳ないんだけれども、そういう意見は多かったですよね。

○委員（関口正博君）　これだけ支出してる効果を出すために、他の部分もやっぱりちゃんと充実させていかないという考え方がね、それはあるだろうね。

○委員（赤井睦美君）　昨日も高校生と話して、バスケットが好きだと。しかし、バスケット部はないと、そんなこと言ってたよね。だから。

○委員（関口正博君）　そうだね。今は親に着いて行っちゃうからね、その部活とかでね。

○委員（赤井睦美君）　そうなんですよ。お父さんだけ残ってるから。

○委員（斎藤　實君）　中学校から出て行ってるからね。

○委員（小西雄一君）　人のこと言えないや。

○委員（赤井睦美君）　トータルで考えなきゃ。

○委員（関口正博君）　まあ、いいか。病院関連は特別委員会の中で集中してやりましょう。それで、いいんじゃないですかね。

ただ、幼稚園や保育所の問題というものは、じゃあ、どうなるか。根本的な生徒の部分から、ちょっと我々も認識を深めなきゃならないでしょう。それはね。認定保育園と認定保育園じゃない違いというのも、申し訳ないけどね、意識不足の部分もやっぱりあるし。

言ったように、ここだけ充実させて、それ以降が他の地域に劣ってたら、これはまったく効果というのはやっぱり現れないと思う。

教育の部分、全体でやるよりは、絞るかい、それとも。保育所だとか、全体でやったほうがいいのかな。

○委員（斎藤　實君）　例えば、今年、議会報告の中で女性だけの日にち作りましたけれども、あの時でこういうような話し合いというのは、いくらか出るんですか。いや、若い人は少なかったけれども、やっぱり子育てしやすい町だってことは出ました。

あと、奨学金免除できる八雲町って３年間働いたり、５年間働いたら奨学金補助してあげるよっていう支援があれば戻ってきて働きやすいって、やっぱりみんな今の人は奨学金に苦しめられている。

○委員（寺田広樹君）　落部もありました、奨学金。できれば免除まで。

○委員（赤井睦美君）　ね。その代わり、八雲町内で働くというね。だから、保育士だけはそうなってるのになぜ他の分野はならないのかなって。

○委員（斎藤　實君）　だけど、前は奨学金使えば、お礼奉公として地元に働いてくれた経緯っていうのは確かあったような感じするんだよな。

○委員（関口正博君）　いや、将来的に仕組みがやっぱり変わってきてるよね。

昔だって、奨学金みんな使ってるってわけじゃなかったっしょ。今はもうほとんどだもん。

○委員（赤井睦美君）　利子高いでしょ。だから余計大変なの。

○委員（関口正博君）　だから、奨学金自体使うっていうのがちょっとやっぱり逆転してきたよね。今はもう奨学金が普通だけど。だから、使わせてもらった以上は地元にっていうこともあっただろうし。今はもうそんなことはないから、奨学金そのものの時代だからどうなのかな。

○委員長（横田喜世志君）　病院で一時産業、要はその。

○委員（関口正博君）　病院なんかは、お金返せばもう自由だからね。

○委員（斎藤　實君）　そういう部分もあったね。

○委員長（横田喜世志君）　一時の人もそうだ。

○委員（斎藤　實君）　ただ、２、３日前の新聞には札医大でもって、地元枠ね、減らしたと、その理由の中で今まで地元枠で入ってるんだけれども、卒業してしまえば地元に残らないでよそに行ってしまうと、誓約書を書いてるんだっていうんだよ。でも、行くって。そういうようなやっぱり時代にもなってきているのかね。

○委員（倉地清子君）　だって、強制力がないでしょ。

○委員（斎藤　實君）　まぁね。

○委員（関口正博君）　あと、どういう協議の仕方していったらいい。

○委員（斎藤　實君）　あと、これやるったら担当の人たちと意見交換して、どれだけの効果あるのか。そして、下げれる部分があるのか、増やすことあるのか、そういう部分の話し合いのほうがいいんでねぇかな。
○委員（関口正博君）　ただ、保育だとかの部分でちょっと調査方法を何個か掲げて、担当課との話し合いというのは。それぞれ次の委員会までに。保育所だとか幼稚園関係で聞きたいこと、疑問に思うことを次回である程度出してまとめましょうか。
　それで、その次で担当課とその部分に対する協議をするっていう。じゃあそれぞれちょっと考えてみて。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君）　いいかな。
○委員長（横田喜世志君）　議長。
○議長（大久保建一君）　八雲町子育て支援計画、それに保育所の数だとか、それに通っている数だとか、あと学童がこういう数で推移しているんだよっていうのが載ってるんだよね。
　まず、それをさ、みんな再確認した上でやらないと、学童通ってる数は要望が強くなってるけど、実際、通ってる子は少なくなってるんだわ。
　だから、そういうせっかく作った計画がちゃんと実情に沿ってるものなのかどうなのか。赤井さんが最初言った、政策だけに大きくお金をかけてしまってんだから、もう。
　だから、それが実際意味をなしているものかどうかという検証も必要だし、保育園の数だとかどうのこうのっていうのは、まずそれを確認してからのほうがいいと思う。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君）　悪いけど俺も見たことないもん。今見てみたらそうだから。
○委員（関口正博君）　まあ、全部そこにのっとって行政は動いているからね。
○議長（大久保建一君）　動いてるはずなの。
○委員（倉地清子君）　わかりました。事前学習をしっかりと。
○委員（関口正博君）　まあ、当然閲覧できるようになるから。
○議長（大久保建一君）　ホームページから見れるの。
○委員（斎藤　實君）　いや、配ってるんでないのかな。
○議会事務局長（野口義人君）　配ってます。
○委員（斎藤　實君）　配ってるよね。我々の手元にあるんだもん。
○委員（倉地清子君）　はい。確かにあります。
○委員（関口正博君）　それをちゃんと各々見て、見た上で質問事項の取りまとめをしてみてください。

（「はい」という声あり）

○委員（関口正博君）　文厚、来月。
○委員長（横田喜世志君）　では、今の現状の方向性が具体的に出ましたので、その方向で来月までに皆さんで議論を出してもらって、それをその次の会に担当課と懇談するということで進めたいと思います。その他何かございますか。
　暫時、休憩いたします。

<<休憩>>

<<再開>>

○委員長（横田喜世志君）　再開いたします。その他ありますか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君）　なければ、第８回文教厚生常任委員会を終了したいと思います。

〔　閉会　午前　１１時１５分　〕